



● 松田 憲之 先生

Noriyuki Matsuda
東京都医学総合研究所
ユビキチンプロジェクト
プロジェクトリーダー

● 服部 信孝 先生

Nobutaka Hattori
順天堂大学大学院
医学研究科神経学 教授 /
順天堂大学大学院医学研究科
老人性疾患病態・治療研究
センター 副センター長

● Glenda Halliday 先生

Professor, Neuroscience
Research Australia, New
South Wales, Australia

● オブザーバー

● José A. Obeso 先生

Professor, Department of
Neurology, University of
Navarra Medical School,
Navarra, Spain/ Editor-
in-Chief, the Movement
Disorders Journal

● 司会

● 高橋 良輔 先生

Ryosuke Takahashi
京都大学大学院
医学研究科臨床神経学
教授

● 長谷川 成人 先生

Masato Hasegawa
東京都医学総合研究所
認知症・高次脳機能研究分野
分野長

α -シヌクレインパチーとマイトファジー 研究の現在と今後の展望

パーキンソン病 (PD) が感染症のように、ヒトからヒトに伝染するとしたら…。近年、 α -シヌクレイン (α -syn) がプリオンと共通している性質をもち、さらに細胞間を伝播することから、疾患が「感染症や癌のように伝播するのではないか」という議論が起こっている。 α -synがどのように伝播し、PDの病態が拡がっていくのか、そのメカニズムを明らかにするため、現在も研究が進んでいる。

今回は豪州よりGlenda Halliday先生をお招きし、PDをはじめとする α -シヌクレインパチーの研究について、また松田憲之先生にはPDにおけるマイトファジー研究についてご解説いただき、現状と今後の展望をご討議いただいた。